

## 1 新しく発見された長崎市新産のもの

### ○ウスバミヤマノコギリシダ（イワデンド科）

本種は県内では西海市や佐世保市に知られておりますが、まだ十分調べられておりません。長崎市北部からも発見されました。ミヤマノコギリシダは谷間のやや湿った林床に生育し、変異が大きく葉身の幅が細いものから、広いものまで見られますが、広いものはウスバミヤマノコギリシダとそっくりの形になり、区別が難しくなります。ミヤマノコギリシダとの違いは葉質が異なり、和名のように葉質が薄く柔らかい特徴があります。しかし、葉質は両種を比べて見ないと、判断が難しいと思われれます。葉の形を比べてみると、最下羽片の下側の小裂片がミヤマノコギリシダは少し鈍頭ですが、ウスバミヤマノコギリシダは鋭頭になりますし、切れ込みが深くなります。



図1. ウスバミヤマノコギリシダの最下羽辺（切れ込みは重なってよくわからない）



図2. ミヤマノコギリシダの最下羽片

### ○ハクチョウゲ（アカネ科）

古くから庭園に栽培されている常緑矮小低木で、中国原産と考えられていましたが、長崎県西海市伊佐の浦川の溪流沿いに生育していることが筆者によって発見され、日本にも自生していることがわかりました。今では植物図鑑にも日本に自生していることが記されています。伊佐の浦川では1000株以上が生育しており、自生とわかりますが、人家付近や耕作地付近にしばしば野生化しているものは、本来の自生かどうかわかりません。長崎市北部の河川沿いにも数株生育していることが発見され、生育地の環境から自生と考えられます。



図3. 溪谷に生育するハクチョウゲ

○アマクサギ（クマツヅラ科）

クサギの変種で、九州南部や琉球列島に分布する南方系のもので、長崎県では五島市から知られていました。長崎市樺島でも葉がやや厚く、光沢がある個体が見られますが、若い芽には明らかに毛が多く、典型的なアマクサギとは言えません。大墓島のものは若い芽も無毛で、アマクサギと同定できます。



○サギゴケ、一名ムラサキサギゴケ（サギゴケ科） 図4. アマクサギの若い芽

かつては各地の水田に生育していたと思われませんが、除草剤の影響や、放棄され植生遷移が進んだため、現在ではまれな植物となりました。長崎市からは初めて三重川の流域やその近くの水田跡地に生育しているのを発見することができました。やや湿った空き地や水田に多いトキワハゼとよく似ていますが、それよりも花は大きく、よく目立ちます。種子は雨滴によって散布されることが知られています。



図5. サギゴケ

## 2 発見された貴重植物

○ヒメフタバラン（ラン科）

県内に広く分布していますが、産地はまれで、市内では古く本河内水源地に知られていました。早春に花が咲く高さ10cm以下の小型のランで、発見しにくく、他の草本が茂ると競争に負けてしまい枯れてしまいます。本河内の生育地はイノシシの攪乱により絶滅したと考えられます。それ以外では旧長崎市北部で発見していたのですが、およそ30年ぶりに再発見することができました。今の所、長崎市では唯一の生育地で、数本が生育しています。

○キエビネ（ラン科）

かつては多く見られたのですが、エビネブームにより乱獲されたり、開発によってまれになり、環境省の絶滅危惧種にも指定されています。県内には広く分布し、長崎市にもいくつか産地が知られていますが、さらに旧長崎市の北東部に10株ほど生育しているのを発見することができました。

○ツクシスゲ（カヤツリグサ科）

ツクシスゲの分布は中西（2015）に分布図が示されていますように、雲仙市小浜町と長崎市南部の2つの分布域があります。今回新たに長崎市三京町で多くの個体が生育しているのが発見されました。長崎市三京町の産地は、長崎市南部から離れた地域であり、三重川中流域沿いの距離1kmぐらいの狭い範囲に分布域があることがわかりました。

○アキノギンリョウソウ、別名ギンリョウソウモドキ（ツツジ科）

これまではイチヤクソウ科に入れられていましたが、新しい分類ではツツジ科に入れられています。ギンリョウソウと外見が似た腐生植物で、ギンリョウソウが春に咲くのに対して、アキノギンリョウソウは晩夏から早秋に咲きます。また、果実も全く違い、アキノギンリョウソウは蒴果をつけます。ギンリョウソウに比べてまれで、雲仙山系や多良山系、国見山、対馬などに知られていましたが、長崎市岩屋山でも発見できました。

○ヒナノシャクジョウ（ヒナノシャクジョウ科）

小形の腐生植物で、夏に湿ったコケの中に発生する白色の植物です。県全体に広く分布していますが、産地は多くはありません。しかし、最近になって西彼杵半島の湿地や河川の上流部の縁にややふつうに生育していることがわかりました。長崎市では旧外海町に見られます。

### 3 長崎市から絶滅した植物

○コマツカサススキ（カヤツリグサ科）

湿地や池畔にまれに生育する大型の草本で、県内ではこれまで大村市、諫早市（小長井）、東彼杵町と長崎市の長浦町に知られていました。長浦町は谷間の湿地に生育していましたが、植林されていたスギが大きくなり、日当たりが悪くなったため絶滅しました。

### 4 母子島の植物

長崎市神浦から西に約1kmの東シナ海に位置する無人島で、東西約200m、南北約250m、最高地点52mの小さい島です。島全体に砂岩できており、周囲は崖地となっています。2010年5月8日と2019年8月31日に長崎市環境政策課主催の調査を行いましたので、その結果をまとめておきます。

○植生の概要

島全体に照葉樹二次林で被われていますが、50年以上伐採されることがなかったため、自然林に近づきつつあります。胸高1mを超えるタブノキや、胸高直径60cmのタブノキ、胸高直径50cmのヤブニッケイなどが島の中央部に生育しています。海岸部はマサキトベラ群集の低木林が一部に見られますが、崩壊しやすい崖地となっているため、海岸崖地植物は断片的で、ポタンボウフウ、ホソバワダン、ヒゲスゲ、ハマナデシコ、ハマボッスなどがま



図6. 母子島の全景 島の周囲は崖地となっています。

ばらに生育しているだけであります。

#### ○植物相の概要

小さい島嶼の特徴として、照葉樹林であっても種組成が単純であることが知られています。本島も同じで、ノシランやムサシアブミ、ホソバカナワラビ、ベニシダ、オオカグマなどの照葉樹林の林床にふつうに見られる種が発見されませんでした。注目すべき植物として



図7. タブノキの巨木

唯一ホウライシダがあげられます。本土側にも二次的に市街地の側溝や湿った石垣に生育していますが、長崎県では本来海岸の湿った崖地に生育しています。本島でも同様な立地に生育しているのが発見されました。

#### ○植物目録

以下に示す 37 科 58 種が確認されました。

##### シダ植物

イノモトソウ科・・・ホウライシダ

オシダ科・・・オオイタチシダ、ヤマイ

タチシダ、オニヤブソテツ

##### 裸子植物

マツ科・・・クロマツ

##### 原始的双子葉類

クスノキ科・・・タブノキ、クスノキ、ハマビワ

##### 単子葉類

サルトリイバラ科・・・カエデドコロ

キジカクシ科・・・ジャノヒゲ、ノシラン

ツユクサ科・・・ツユクサ

カヤツリグサ科・・・イソヤマテツンツキ、ヒゲスゲ

イネ科・・・ギョウギシバ、カモジグサ、ススキ

##### 真正双子葉類

アケビ科・・・アケビ、ムベ

ツヅラフジ科・・・アオツヅラフジ、オオツヅラフジ

キンポウゲ科・・・ヒメウズ

ブドウ科・・・ノブドウ、エビヅル、ナツツタ

マメ科・・・ハマナタマメ、クズ

バラ科・・・テリハノイバラ

グミ科・・・オオバグミ

クワ科・・・ヤマグワ、アコウ、イヌビワ



図8. 岩の割れ目に沿って生育するホウライシダ

イラクサ科・・・ニオウヤブマオ  
ニシキギ科・・・マサキ、テリハツルウメモドキ  
カタバミ科・・・ケカタバミ  
スミレ科・・・タチツボスミレ  
ウルシ科・・・ハゼノキ  
ミカン科・・・カラスザンショウ  
タデ科・・・ギシギシ、ツルソバ  
ナデシコ科・・・ハマナデシコ  
ヒユ科・・・コアカザ  
サクラソウ科・・・ハマボッス  
ツバキ科・・・ハマヒサカキ、ヒサカキ  
ハイノキ科・・・クロキ  
アカネ科・・・ソナレムグラ、ハマヘクソカズラ  
キョウチクトウ科・・・テイカカズラ  
ムラサキ科・・・オオムラサキシキブ  
ナス科・・・ヒヨドリジョウゴ  
キク科・・・ホソバワダン、シマカンギク、ノゲシ  
トベラ科・・・トベラ  
ウコギ科・・・キツタ  
セリ科・・・ボタンボウフウ